作成日：2013/03/05
改訂日：2026/05/22

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名　　：ENT-40
会社名　　：クリーンケミカル株式会社
住所　　：大阪府高槻市成合南の町 4-1
担当部門　　：品質・薬剤管理課
電話番号　　：072-668-7364
FAX 番号　　：072-668-7369
技術部門　　：技術開発部
電話番号　　：072-634-6470
FAX 番号　　：072-636-6591

推奨用途　　：業務用洗浄剤
使用上の制限　　：推奨用途に限定する

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類
物理化学的危険性
金属腐食性化学品：区分 1
健康に対する有害性
皮膚腐食性/刺激性：区分 1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分 1
特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分 2（呼吸器）
環境に対する有害性
水生環境有害性 短期(急性)：区分 1
水生環境有害性 長期(慢性)：区分 1
GHS ラベル要素
絵表示



注意喚起語：危険
危険有害性情報
H290 金属腐食のおそれ
H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
H318 重篤な眼の損傷
H371 臓器の障害のおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性
H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
注意書き
安全対策
P273 環境への放出を避けること。
P234 他の容器に移し替えないこと。
P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P264 + P265 取扱い後は手をよく洗うこと。眼には触らないこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
応急措置
P390 物的被害を防止するために流出したものを吸収すること。
P391 漏出物を回収すること。
P308 + P316 ばく露又はその懸念がある場合：すぐに救急の医療処置を受けること。
P316 すぐに救急の医療処置を受けること。
P317 医療処置を受けること。
P304 + P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P302 + P361 + P354 皮膚に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
すぐに水で数分間洗うこと。
P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
P305 + P354 + P338 眼に入った場合：すぐに水で数分間洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容

易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
保管
P405 施錠して保管すること。
廃棄
P501 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物
化学名又は一般名　　： 次亜塩素酸ナトリウム、洗浄助剤、水

成分名	濃度（wt%）	安衛法	化管法	毒劇法
水酸化ナトリウム	< 5	表示・通知物質 皮膚等障害化学物質	非該当	非該当
次亜塩素酸ナトリウム	>= 5 （製造時有効塩素として）	表示・通知物質 （2027.4.1 施行） 皮膚等障害化学物質	非該当	非該当

4. 応急措置

吸入した場合
新鮮な空気の場所に移し、うがいをし、安静・保温に努める。
塩素ガスを吸入した場合、直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。
異常を感じるならば、直ちに医師の処置を受ける。
皮膚に付着した場合
直ちに多量の水で洗い流す。異常を感じるならば医師の処置を受ける。
微温湯を流しながら皮膚の刺激やぬるぬるする感じがなくなるまで洗い続ける。
眼に入った場合
こすらずに直ちに流水で 15 分間以上洗眼(眼球とまぶたの隅々までよく洗う)し、医師の処置を受ける。
コンタクトレンズを着用しており、容易に外せる場合は外し洗浄を続ける。少しでも早く洗眼を始め、入った物質を完全に洗い流す必要がある。洗眼を始めるのが遅れると障害を増大させるおそれがある。
飲み込んだ場合
口の中を水で洗い、水又は牛乳を飲む。無理に吐かせない。直ちに医師の処置を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤
適切な消火剤
容器周辺の火災の場合、水、粉末、二酸化炭素などを用いる消火剤は使用できる。
使ってはならない消火剤
データなし
火災時の特有の危険有害性
消火水や希釈水は腐食性であり、汚染を引き起こすおそれがある。
消火を行う者への勧告
特有の消火方法
関係者以外は安全な場所に退去させる。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置
消火作業従事者は適切な保護具を着用し、煙等を吸い込まないように、風上から作業する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
適切な保護具を着用する。関係者以外の立ち入りを禁止する。
塩素ガスが周辺に拡散する恐れがあるときは関係者に連絡するとともに、風上に避難誘導等の措置を講じる。
環境に対する注意事項
漏出された製品が河川等に排出され、環境に影響を及ぼさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材
漏洩した液は出来るだけ回収し、残りはウエス、ぼろ布等に吸収させて焼却する。回収できない液は、多量の水で充分に希釈して洗い流す。酸による中和は有害な塩素ガスを発生するので防護対策を講じて行う必要がある。誤って、酸と接触及び混合させた場合は、直ちに苛性ソーダ、消石灰などのアルカリで中和する。
二次災害の防止策
pH の低下や重金属の混入により、塩素ガスの発生がある為、注意を要する。発生した塩素ガスが周辺に拡散する恐れがある場合は、関係者に連絡するとともに、風上に避難誘導等の措置を講じる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

必要な個人用保護具を使用する。

(注意事項)

皮膚に触れないようにする。眼に入らないようにする。

煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しない。

安全取扱注意事項

必要な個人用保護具を使用する。

転倒させ、落下させ、衝撃を加え又は引きずる等の乱暴な取り扱いをしない。

接触回避

酸、金属、有機酸化物等と接触・混合しない。

pHの低下や重金属の混入により、塩素ガスの発生がある為、注意を要する。

衛生対策

取扱い後は汚染個所をよく洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をする。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしない。

保管

安全な保管条件

換気の良い場所で保管すること。

高温・直射日光を避けた涼しい所に密栓して保管する。

子供の手の届かない場所に保管する。

避けるべき保管条件

日光、熱、酸、金属、爆薬、有機酸化物等から離して貯蔵する。

金属腐食の恐れがある。金属容器に保管してはならない。

安全な容器包装材料

データなし

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

管理濃度及び濃度基準値

データなし

職業ばく露限界値

(水酸化ナトリウム) 日本産業衛生学会 (最大許容濃度) 2mg/m3

ACGIH Ceiling: 2mg/m3 (上気道、眼及び皮膚刺激)

ばく露防止

設備対策

適切な換気のある場所で取扱う。

室内で取扱う場合、適切な排気装置を設け、管理指標以下に保つ。

取扱い場所の近くに、手洗・洗眼・身体洗浄のための設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具

保護具は、実際の使用方法や使用環境を考慮し、保護具メーカーの提供情報や厚労省が公表している耐透過性能一覧表を確認して選定すること。

呼吸器の保護具	保護マスクを着用する。
手の保護具	不浸透性の保護手袋等を着用する。
眼及び顔面の保護具	不浸透性の保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて、不浸透性の保護長靴、保護服、前掛を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
色	: 黄色透明
pH	: 11.6 (1%溶液)(代表値)
密度及び/又は相対密度(比重)	: 1.08 (25℃)(代表値)
臭い	: 塩素臭
融点/凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 初留点>35℃

可燃性	：データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	：データなし
引火点	：データなし
自然発火点	：データなし
分解温度	：データなし
動粘性率	：データなし
溶解度	：水、湯に相溶する。
蒸気圧	：データなし
相対ガス密度	：データなし
その他	：データなし

10. 安定性及び反応性

反応性　　データなし

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定であるが、徐々に有効塩素が減少する。
異物と接触すると分解し、酸素ガスや塩素ガスを発生する。金属に対して腐食性がある。
日光、熱、金属に対して不安定である。

危険有害反応可能性

pH の低下や重金属の混入により、酸素または塩素ガスの発生がある為、注意を要する。
金属を腐食させる場合がある。

避けるべき条件

日光、熱

混触危険物質

酸類と混合すると塩素ガスが発生するので、絶対に混合してはならない。

危険有害な分解生成物

塩素ガス

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性（経口）

LD_{50} 5mL/kg 以上（原液）
LD_{50} 20mL/kg 以上（2%)(マウス-経口）
（次亜塩素酸ナトリウム）　　雄ラット LD50: 5230 mg/kg

急性毒性（経皮）

（次亜塩素酸ナトリウム）　　ラット LD50: > 2000 mg/kg

急性毒性（吸入）

有用な情報なし

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

11.5 <= pH であることから、皮膚腐食性/刺激性：区分 1 に分類した。
（水酸化ナトリウム）　　区分 1
（次亜塩素酸ナトリウム）　　区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

11.5 <= pH であることから、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分 1 に分類した。
（水酸化ナトリウム）　　区分 1
（次亜塩素酸ナトリウム）　　区分 1

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性

有用な情報なし

皮膚感作性

有用な情報なし

生殖細胞変異原性

有用な情報なし

発がん性

有用な情報なし

生殖毒性

有用な情報なし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）
（水酸化ナトリウム）　区分 1（呼吸器）
（次亜塩素酸ナトリウム）　区分 3（気道刺激性）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）
有用な情報なし
誤えん有害性
有用な情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性　水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
水生環境有害性 短期(急性)
（水酸化ナトリウム）　甲殻類（ネコゼミジンコ）48時間 LC50: 40 mg/L
（次亜塩素酸ナトリウム）　甲殻類（Ceriodaphnia dubia）24時間 LC50: 5 μg FAC/L
水生環境有害性 長期(慢性)
（次亜塩素酸ナトリウム）　魚類 134日間 NOEC: 5 μg TRC/L
残留性・分解性　有用な情報なし
生物蓄積性　有用な情報なし
土壌中の移動性　有用な情報なし
オゾン層への有害性　有用な情報なし
その他情報　有用な情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物
環境への放出を避けること。
内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。
本剤は塩素系アルカリ性溶液です。使用液(希釈液等)の排出の際は大量の水と共に廃棄するか、チオ硫酸ナトリウム(ハイポ)で脱塩素後に中和処理後、多くの水と共に廃棄する。
大量の場合は廃棄物処理業者に廃棄依頼する。
汚染容器及び包装
空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。
廃棄物処理法
特別管理産業廃棄物：pH 12.5 以上の廃アルカリ

14. 輸送上の注意

輸送の特定の安全対策及び条件
輸送に関しては直射日光を避け、容器の漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み荷崩れの防止を確実に行う。
環境有害性
海洋汚染物質（該当/非該当）：該当
国際規制
国連番号/国連分類　UN1760／クラス 8（その他の腐食性液体、N.O.S.）容器等級Ⅱ

15. 適用法令

労働安全衛生法	：	名称表示危険/有害物	水酸化ナトリウム 次亜塩素酸ナトリウム（2027.4.1 施行）
		名称通知危険/有害物	水酸化ナトリウム 次亜塩素酸ナトリウム（2027.4.1 施行）
		皮膚等障害化学物質	水酸化ナトリウム、次亜塩素酸ナトリウム
毒物及び劇物取締法	：	非該当	
化学物質排出把握管理促進法	：	非該当	
消防法	：	非該当	
船舶安全法	：	腐食性物質 分類 8	
航空法	：	腐食性物質 分類 8	

16. その他の情報

作成日：2013/03/05
改訂日：2026/05/22

参考文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 23rd edit., 2023 UN
2024 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK(US DOT)
2026 TLVs and BEIs. (ACGIH)
http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php
JIS Z 7252 : 2025
JIS Z 7253 : 2025
Supplier's data/information

責任の限定について

記載内容は、現時点で入手できた資料、情報、データなどに基づいて作成しておりますが、必ずしも十分な情報ではない可能性があり、新しい知見によって改訂される事があります。また、通常の取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には新たな用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
本データシートの目的は当該製品を安全に取扱って頂くため情報を提供するものです。法的な要求事項を除き、製品の使用に伴う損失や災害等を補償するものではありません。また、ここに記載されたデータは製品仕様とは異なり、情報の正確さ、安全性について何ら保証するものではありません。
ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE-CHRIP)(令和6年度 (2024年度) 公表分まで))です。